

## AMH が 5ng/ml 以上の症例での生殖補助医療(ART)における最適な卵巣刺激方法の検討

当院では、AMH が 5ng/ml 以上の卵巣機能の良い症例での生殖補助医療(ART)における卵巣刺激方法は基本的に GnRH antagonist + rFSH を第一選択としていますが、症例毎にエコーで胞状卵胞数(AF)や血中ホルモン値により、内服薬や注射薬量の調整を行い、患者さんごとに個別化治療を行っております。今回刺激方法別にその治療成績および合併症のひとつである卵巣過剰刺激症候群：OHSS に関しても検討しましたので報告します。

AMH が 5ng/ml 以上の 282 症例、334 周期を対象とし、次の 4 群に分け検討を行いました。

A 群 クロミッド+rFSH 連日投与

B 群 rFSH 連日投与

C 群 rFSH 連日投与し、卵胞径が 14mm となった時点で、GnRH antagonist を投与

D 群 アロマターゼ阻害薬+rFSH 投与

採卵数においては

A 群  $8.5 \pm 6.1$  B 群  $9.1 \pm 6.9$  C 群  $12.6 \pm 7.9$  D 群  $6.4 \pm 2.9$  で C 群において多い結果となりました。

MII 率（卵子の成熟率）においては

A 群 80.2% B 群 77.8% C 群 84.0% D 群 88.9% で B 群と比較し C 群において高い結果となりました。

胚盤胞率、良好胚盤胞率においては、どの群においても良好な結果であり、各群に差は認めませんでした。

良好胚盤胞数においては

A 群  $3.3 \pm 2.5$  ケ B 群  $3.6 \pm 3.0$  ケ C 群  $4.7 \pm 4.1$  ケ D 群  $2.6 \pm 2.6$  ケで各群に差は認めませんでした。が、C 群で最も多い結果となりました。

採卵 7 日後の卵巣サイズにおいては

A 群 44.2mm B 群 36.9mm C 群 38.9mm D 群 57.4mm で、A 群、D 群で大きい結果でした。

\* 卵巣サイズが大きいと OHSS 重症度は上がります。

採卵から次の月経開始までの日数においては

A 群  $13.6 \pm 3.6$  B 群  $7.4 \pm 4.1$  C 群  $7.5 \pm 4.5$  D 群  $14.1 \pm 1.6$  で B 群、C 群において短い結果でした。\* 採卵後の月経開始が早いほど OHSS の改善は早くなります。

臨床妊娠率においては

A 群 38.3% B 群 37.1% C 群 46.5% D 群 25.0% で各群に差は認めませんでした。

GnRH antagonist + rFSH による卵巣刺激方法は、採卵数および採卵周期当たりの良好胚盤胞数が最も多く、1 回の採卵で妊娠成立し、凍結胚盤胞が確保できることにより、その後の第 2・3 子治療に結び付く可能性が高いことが分かりました。また OHSS に関しても良好な経過であることより最適な刺激法と考えられました。

今後も、皆さんの大切なデータをしっかりと分析検討を行い、フィードバックすることで、お一人でも良い結果につながるよう治療を進めてまいります。

院長 園田桃代